

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒 207-0015
東京都東大和市中央 1-539-15
<https://tohoku-saiko.jp/>
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create , TOHOKU!

2 0 2 5 年（ 令 和 7 年 ） 6 月 16 日 月 曜 日

無料

第157号

毎月発行

発行 2025 年（令和 7 年）6 月 16 日 月曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、71 歳の新人
歴史映像作家兼プロデュー
サー。3 作目の「古代製鉄の
埋もれた歴史を発掘した映像」
の大崎上映会は延期。乗
り越えて4 作目制作に古
代史・縄文を日
本を研究。埋もれた東北
文化を掘り起こすことを
標榜。



現代の米騒動を契機に『東北米産業』の 未来像を根本から考え直そう

連日のようにテレビは飽
きもせず、「備蓄米」の放
出関連ニュースを流し、店
頭に並んだ「備蓄米」を購
入しようと夜中から長い行列
をつくって群がる消費者の
様子を伝え、「現代の米騒
動」をあり立てている。
こうした光景を何度も反
復して見せられると、あわ
てふためき、「備蓄米」を購
入する列に我先に並ぼうと
してしまふ姿は、大分以前
のオイルショック時のトイ
レットペーパーに消費者が
群がった姿を彷彿とさせる。
また、「備蓄米」を安値で
放出した新農水大臣を、ま
るで「大英断」を下したヒ
ローのように持ち上げるの
はあやまりで、彼がやるべ
きは、急激な価格上昇の原
因を徹底的に追及して、早
急に改善することであらう。
こうしたマスメディアの
傾向は今にはじまったこと
ではないが、まるで他に重
要なニュースがないかのよ
うに、このニュースばかり
が幅を利かせてイヤになる。
かつ、急激に米価格が上

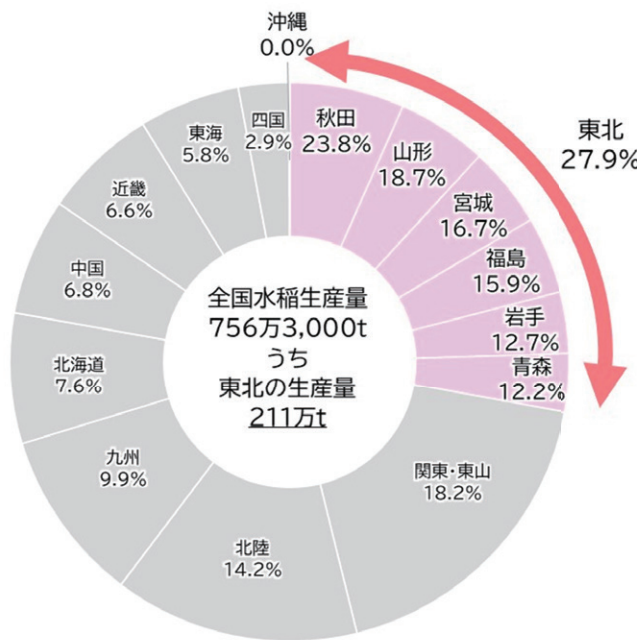
昇してしまった原因を徹底的に追究するようなマスメディアも見かけない。
むしろ、急上昇の原因を追及させまいとして、安い「備蓄米」を鼻先にぶら下げて目をそらさせる作戦に協力かとも思えてしまう。
*
当新聞は、こうしたマスメディアとは一線を画し、まったく別のアプローチで、きちんとしたデータに基づいて、だれも取り上げない『東北の米産業の未来』を考えていくことにしたい。
*
ただ、その前に以下の点だけは明確に主張しておく。
① 「備蓄米」は国の税金で計画的に買い上げたもので政府が好成績手に出来るものではない
② 今年に入つての米価急上昇は突然のことではなく、岸田政権時代からはじまっていることを忘れてはならない
③ 夏の参院選後の米価が再上昇しないことが最も大事である

実りある議論のために『東北米産業』を 取り巻くさまざまなデータを把握する

生産量		(千t)
1位	中国	144,500
2位	インド	104,800
3位	インドネシア	35,760
4位	バングラデシュ	34,500
5位	ベトナム	28,074
6位	タイ	18,750
7位	ミャンマー	12,600
8位	フィリピン	11,915
9位	ブラジル	8,465
10位	日本	7,816
11位	アメリカ	7,068
12位	パキスタン	6,900

消費量		(千t)
1位	中国	147,500
2位	インド	98,097
3位	インドネシア	38,500
4位	バングラデシュ	35,200
5位	ベトナム	22,100
6位	フィリピン	13,200
7位	タイ	11,700
8位	ミャンマー	10,550
9位	日本	7,966
10位	ブラジル	7,900
11位	ナイジェリア	6,400
12位	韓国	4,450

生産量から見る東北のお米の生産割合（令和3年産）



資料：農林水産省「令和3年産水陸稲の収穫量(水稻)」

世界の米生産量・消費量ランキング(農水省資料)

(日本のデータは農水省・平成26年度「食料需給表」より、その他の国・地域は米国農務省「PS&D」(10 November 2015、2014/15年の数値〈見込値を含む〉)より作成 ※注：数値は精米ベース)

日本の米の生産と消費

左表のデータは約十年前の平成二十六年と古いのが、最初に日本全体の米の生産量と消費量を抑えておこう。
年間生産量は約七百八十二万トンで、年間消費量は約七百九十七万トン、生産量よりも消費量の方が十五万トン大きいことが分かる。

この不足分は米の輸入でまかなっているのだから消費量に関しては、年間データを換算して一日あたり数量をはじくと約二万トン強、ひと月あたりで約六十六万トン強となる。現在の「備蓄米の総枠」を九十万トンとすると、ひと月半分に足りない。

日本の米の国際的位置

同資料によれば、日本の生産量は世界十位で、消費量では九位である。「米大国」とはとても言えない。中国とインドが図抜けていて、他を引き離している。日本より生産量が多く消費量が少なく余剰米を保有する国、ベトナム、タイ、アメリカ、パキスタンなどは、もし日本に米不足が発生したならば、いち早く輸出したいと考えるだろう。

東北六県の米生産量

右側のデータは令和三年のもので少しズレがあるが、地方別にみると、意外にも東北がトップであり、実に



ストも安いであろう。

そうしたことを考えると、これからずっと、日本産の米の味は他国米とは違うのだから、関税障壁でガードし続けるという理屈はなかなか通りそうもないのだ。

他国の米生産技術もますます向上し、かつ日本の農業技術者も現地で頑張っていることだろう。「味」はどんどん近づいてくるのだ。さらに、日本の経済状況で、高い国産米優先の余裕はなく、安い海外米に飛びつく「環境」はすでに整っているのである。

どうする日本の米作り？

どうする東北の米作り？

いまずぐ大転換が必要だ

農業改革には時間がかかる

今日決めて明日から実現はないのだ。

本来は温帯植物の「米」と『東北米産業』の2000年の苦闘の歴史を振り返る

時代に激変し、縄文末期にはそれまでの気候も植物も食べるものも大変化した。

列島北部の東北は特にひどかったであろう。そのため東北北部からは大量の人口南下もあつたであろう。

しかし、生きのびるための最大の課題は食物だった。いろいろと工夫はしてもそれまでの食物をカバールことはむずかしく、かなりの餓死者も出ただろう。

そんな状況が続いた後の弥生時代、列島に朝鮮半島経由で水田稲作が伝来した。

そして、なんと、東北のなかでも最も北に位置する青森県津軽地方に、今から二千三百年から二千四百年前、水田稲作が東日本で初めて導入されたことを証明する痕跡が発掘されたのだ。

温帯植物で、寒冷地には適さない米が本州最北端で栽培されたわけである。その痕跡は、それほどまでに食物に困窮していたことの裏返しでもある。また、水田稲作導入から収穫して食糧の足しにするまでどんなに苦労したことか。

東北の水田稲作との初めての出会い

東北の米産業を振り返るために、現代からいきなり古代に舞台を移すが、東北と水田稲作との初めての出会いを見てみよう。

縄文時代には「陸稲（おかぼ）」という畑で米を作っていた痕跡があるが、それはわずかだったであろう。

その後水田稲作との出会いがあつたが、非常にきびしい環境下でのことだった。

日本列島は数千年の間に、温暖化時代からミニ寒冷化

その始まりを平安時代とする考え方もあるが、筆者は、秀吉の太閤検地の時代に確立したと考える。「米本位制」のスタートである。

しかし米は温帯地域の植物で、比較的寒冷な東北の地に適してはいない。

江戸時代になり、何度も冷害となつて、年貢米を納められないために「揆」が岩手あたりを中心に頻発した。餓死者も身売りも出た。

東北にはアワやヒエが適しているというのに、比較的温暖な地方と同じように年貢として米生産を課されたための悲劇だった。

敗戦後の米増産を東北が担うが今度は米余り

昭和の戦争中及び敗戦直後の食糧難、特に米不足の反省から国を挙げての米増産政策に邁進した。東北も率先して増産に取り組んだ。

筆者が小学校低学年の時には、教科書に沼地の干拓、米の品種改良が掲載されていた。老いも若きも米増産一色だった。

しかし一九六七年に米の自給達成となり、その三年後の一九七〇年になると突然の米余りを迎える。

米本位制移行と「揆」

時代は下り、水田稲作がこの国に浸透して行くにつれ、米が通貨の代わりになる経済の仕組みが徐々に形成されていった。

『東北米産業』は「減反政策」から「増産」に転換し、新規の米活用に挑戦

『米』をあきらめるか？

ここまでくると『東北米産業』の未来は暗く、良い話は何もないように見える。

さらに長年の東北農業従事者の高齢化問題、後継者不足問題、労働集約型問題、低所得問題も抱えている。

ならば、近々「ギブアップ」して『東北米産業』を完全に店じまいするのか？

弥生時代以来二千年以上の長きに亘つて、米には苦しみめられてきたし、恨み満載の米作りだったが、その都度必死の努力で何とか乗り越えてきたのだが、今度こそあきらめるのか？

「減反」はどうするか？

一九七〇年から半世紀以上続いてきた「減反政策」はどうするか？もし耕作地の

大規模化で増産が実現すればコストは大きく下がるが増産した米は売れるのか？

コストの高い米を輸出しようにも買ってくれる国はあるのか？アメリカに輸出して、カリフォルニア米の数倍の値段で買ってくれるのか？他の国ではどうか？

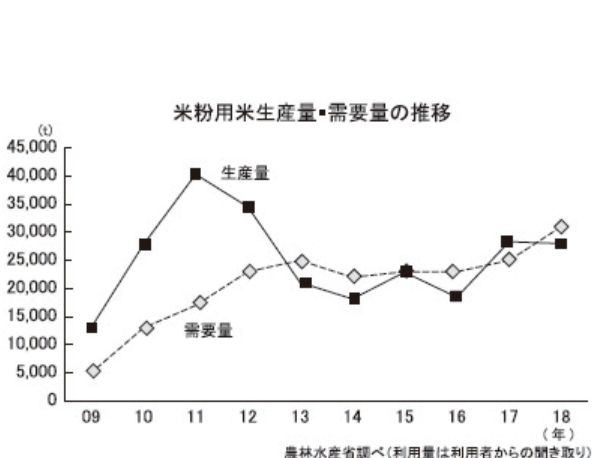
一九六〇年代では、生産量のピークは千四百万トン超で、前述の生産データの約七百八十二万トンより六百万トン以上の余力があるが、その増産米の行先はどこかにあるか？とても出口が見えそうもない。

「ご飯茶碗に白米」のイメージを脱せよ！

具体的な解決策を検討してみる前に、米で思い浮かべる「ご飯茶碗に白米」のイメージを取り上げよう。これは何だか、戦前の米不足時代の白米信仰イメー

《米粉新産業候補リスト》

- ① 「米粉素材の新規ファストフード開発」東南アジア諸国に学んで、指導を受けて開発（例：ライスペーパー生春巻き、ベトナム風お好み焼き等）
- ② 「米粉麺」の開発・・・ベトナム「フォー」を参考に開発
- ③ 「米粉使用お菓子」の開発
- ④ 「ハンバーガー」に「米粉バンズ」として新規参入
- ⑤ 「米粉パン」増産
- ⑥ 「その他米粉を活用した食品」を開発



日本食糧新聞より



ベトナム生春巻き・・・(株) 明治 WEB より



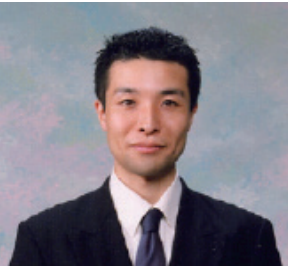
ベトナム風お好み焼きバインセオ・・・サッポロビール WEBより

ジそのままではないか？米を原料や素材として認識したら、活用範囲がもっと広がるのではないかとこの点で「米先進国」ともいうべきベトナムとか中国南部、台湾等の活用方法をみるとさまざまなバリエーションがあるのだ。ならば、まずは「米先進国」に頭を下げて米の活用方法を教えてもらえばいいではないか？

を何度か取り上げた。とはいえ、米粉の生産と需要はグラフを見て分かる通り今は微々たるものだ。もし減反から増産に切り替えて、数百万トンの米を米粉用に転用するには現状の百倍規模にしなければならぬ。東北だけでも百万トン以上も拡大するのだ。他方、東北が本格的に米粉ビジネスに取り組んだという話もこれまで一度も聞いたことがない。

トナム風お好み焼きバインセオ」、あるいは「ベトナムフォー」などは身近で販売されれば食べたくなる食品である。そこに新たな米粉製ファストフード市場の可能性があるのではないかとまたこの国ではハンバーガーは大人気である。いったい年間で何個販売されているのであろうか？統計データはないが、全体で何十億個という話もあるようだ。

大胆にもそこに参入してみるといのはどうか？価格がどんどん上昇している小麦粉に代わり、グルテンフリーの米粉バンズで挑戦するのだ。やつてみる価値はあるのではないかと？もうここまで追い詰められたら背水の陣で挑戦してみるのがいいではないか？何もチャレンジせずして最初から望みなしとしてギブアップするのは、二千年間も米と苦闘してきた東北の祖先たちに申し訳が立たないのではないだろうか？

2025 年（令和 7 年）6 月 16 日（月曜日）				第 157 号	https://tohoku-saiko.jp/
知ってそいで知らない 紅花の話		そもそも紅花とは 紅花という植物があるのはよく知られている。東北の人であれば、山形で多く栽培されてきたことも知っているに違いない。そして、その花から取れる色素で染め物ができることも知られている。しかし、よく知られているのはそれくらいである。少なくとも、私の紅花についての知識はそれくらいであった。そうそう、山形の県の花が紅花であることも知っている。ただ、その紅花が現在どのような状況なのかについては詳しく知らなかったし、知ろうともしていなかった。 山形に紅花推進協議会が発足し、山形紅花プロジェクトが立ち上がった。このプロジェクトのコンセプトは、「パーセントの紅色を守るため、九九パーセントの黄色を広める」であった。いったいどういうことか。 紅花が珍重されたのは、		その花から取れる紅色の色素である。紅花を思い浮かべてみると、黄色の中に赤色があることが分かる。実は、紅花から取れる色素のうち、紅花という名からイメージされる紅色の色素の割合はわずかにパーセントで、残りの九九パーセントは黄色の色素なのだそうである。 そして、今までは、この紅色の色素を取り出すために、残りの黄色の色素は全て捨てられていたとのことである。黄色の色素は水溶性で水に溶けるので、紅花を水に付けて繰り返し洗い流せば、黄色の色素は流されて、水に溶けない紅色の色素だけが残るといのである。 一時は絶滅した紅花栽培 ところで、紅花からパーセントしか取れないその紅色の色素だが、時代の変遷の影響を大きく受けた。江戸時代までは、紅色に染められる染料は紅花しかなかったため、紅花の生産量では山形県は圧倒的なトップで、特に最近では内陸南部の白鷹町が「日本の紅（あか）をつくる町」を掲げて紅花栽培を進めており、国内の紅花生産のおよそ六割の生産量を誇っている。 山形県内における紅花生産復興のきっかけとなった高瀬地区は、以前本紙第二二八号の「聖地巡礼」の『聖地』を東北に」で紹介したことがあるが、一九九一年にジブリスタジオが映画化して公開された「おもひでぽるぽる」の舞台となった場所である。この映画の中に、高瀬地区で農家の方々が紅花を栽培している場面が登場する。 映画と言えばその後、二〇二二年には山形県出身の映画監督佐藤広一氏が、紅花の栽培から染色までを四年掛けて追い続けて完成したドキュメンタリー映画「紅花の守人」のちを染める」も話題になった。 利活用のための工夫 一旦盛り返した紅花生産が減少に転じたのは他の国内の農業と同様の課題を抱えているためである。本紙第一三九号で遠野市のホップ栽培六〇周年を取り上げた際に紹介したが、最盛期の昭和六二年（一九八七年）には栽培面積が二二ヘクタールの広さがあった遠野のホップ栽培も、令和四年（二〇二二年）には一八ヘクタールにまで減少してしまっている。課題は共通している、安価な輸入品との競合、農家の高齢化、後継者不足である。 また、収穫した作物の持続可能な活用も重要である。ホップはほぼビールに使用されるが、遠野ではそれ以外の活用方法も模索している。ホップを使った爽やかな清涼飲料水「ホップソーダ」や、ホップを加えて肉の旨味を引き立てた「ホップフランク」、ホップの蔓を燃やした灰を使って独特の色合いを出したビアグラス「グラスホップ」などもある。 紅花でも同様に、様々な活用法が生み出されている。先に述べた通り、かつて紅花の存在意義だったと言っても過言ではない紅色の色素だけでは、紅花はいかに山形の県花だと言っても持続可能な作物とはならない。 そこで光が当たったのが、今まで水に流されるだけだった黄色の方の色素だったのである。冒頭紹介した紅花推進協議会のコンセプト「パーセントを守るため、九九パーセントを広める」はまさにこの趣旨を表現している。 具体的には、この黄色の色素は飲食の用途で大いに活用が可能である。例えば、インドのカレーによく使われている黄色のライスを見たことはないだろうか。あれはサフランというスパイスを使って黄色く色付けした「サフランライス」だが、サフランはスパイスの中でも飛び抜けて高価である。紅花の黄色を使った「紅花ライスはサフランの二〇分の一程度のコストで作れるという。また、紅花は食用にもなる。紅花をトッピングしたチーズケーキや紅花を練り込んだ羊羹などは既に商品化されている。 飲料にも活用できる。大手メーカーの清涼飲料水で黄色のものの原材料を見ると「ペニバナ色素」と書かれたものがあるが、山形県内ではこの紅花を用いた黄色いハーブティーが好評である。元々紅花は漢方にも使われている。 そして、今回紅花推進協議会がお披露目をしたのが、「山形紅花クラフトビール」である。コンセプトは「染めるための赤、味わうための黄」とのことである。多くのビールが金色をしているので、一見すると通常のビールに見えるのだが、よく見るとやはり金色ではない黄色をしており、何よりビールの泡まで黄色である。 今回山形県内の二つのクラフトビール醸造所、蔵王ブルワリーと酒田トラディショナルビールが、それぞれスタイルの違う二つのビール、「ペニバナガー」と「ペニバナール」を造ってくれた。飲むとそれぞれに個性のある味であり、飲み比べも楽しい。今後、山形県内の小売店で買える他、飲食店でも取り扱われるそうである。 紅花は食用油としても活用されている。サフラワー油というのがそれで、これは紅花の種から抽出されるものだが、オメガ九脂肪酸のオレイン酸が豊富なのが特徴である。オレイン酸が豊富な食用油は他にもあるが、サフラワー油は風味にクセがなく、サラダやドレッシングにそのまま使用されること	
執筆者紹介 大友浩平 （おおともこうへい） 奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。 「東北ブログ」 http://blog.livedoor.jp/anagma5/		F a c e b o o k https://www.facebook.com/kouhei.ootomo 		手メーカーの清涼飲料水で黄色のものの原材料を見ると「ペニバナ色素」と書かれたものがあるが、山形県内ではこの紅花を用いた黄色いハーブティーが好評である。元々紅花は漢方にも使われている。 そして、今回紅花推進協議会がお披露目をしたのが、「山形紅花クラフトビール」である。コンセプトは「染めるための赤、味わうための黄」とのことである。多くのビールが金色をしているので、一見すると通常のビールに見えるのだが、よく見るとやはり金色ではない黄色をしており、何よりビールの泡まで黄色である。 今回山形県内の二つのクラフトビール醸造所、蔵王ブルワリーと酒田トラディショナルビールが、それぞれスタイルの違う二つのビール、「ペニバナガー」と「ペニバナール」を造ってくれた。飲むとそれぞれに個性のある味であり、飲み比べも楽しい。今後、山形県内の小売店で買える他、飲食店でも取り扱われるそうである。 紅花は食用油としても活用されている。サフラワー油というのがそれで、これは紅花の種から抽出されるものだが、オメガ九脂肪酸のオレイン酸が豊富なのが特徴である。オレイン酸が豊富な食用油は他にもあるが、サフラワー油は風味にクセがなく、サラダやドレッシングにそのまま使用されること	
花 観光資源としての紅花 食べたり飲んだりするだけが紅花ではない。紅花は見てもキレイである。今後はこの観光資源としての紅花の活用にももっと力を入れていくのがよいのではないかと考える。食用になる農作物の観光資源としての活用については、菜の花や蕎麦の事例が参考になるのではないだろうか。 現在でも、高瀬地区を始め、米沢市や中山町で紅花まつりが開催されているが、菜の花や蕎麦の花と比べてあまり目立たないのは恐らく、栽培面積の違いが大きいように思われる。菜の花の「黄色い絨毯」や蕎麦の「白い絨毯」に引けを取らない「紅と黄色の絨毯」を実現させるにはやはり栽培面積のさらなる拡大が必要で、そのためには一層の利活用拡大が必要となるわけである。 今回のプロジェクト以前にも、様々な形で紅花の活用のための取り組みが行われてきた。例えば、山形市の街中のホテルのレストランでは、紅花を利用した食事メニューを用意したりした。しかし、収量が少ないために期間限定で終わらざるを得ず、好評であつてもなかなか持続できないという課題があつたそうである。利活用の拡大と栽培面積の拡大はセットで進めていく必要があるということである。 紅花推進協議会の会長でもある山寺、宝珠山立石寺		 		のご住職の清原さんがおっしゃってたが、紅花染めは今も生きていて、山寺も所属する天台宗では、紅花染めの着物は天台宗の高位にある数名しか着用することができないとのことであつた。 紅花染めは、そのような徳や位の象徴でもあるわけである。 九九パーセントの黄色を広めると同時に、この残りパーセントの希少さについても改めていくことが重要である。山形の紅花は「日本遺産」と「日本農業遺産」の両方に登録されている。古くから受け継がれてきた遺産を未来につなげていくことが求められる。とりあえず私は、「紅花クラフトビール」を大いに飲んでいきたいと思う。	

過激なるイーハトーヴの起草！？ 素人が始める、東北政治の事

今、日本全体が衰退・消滅の危機に瀕している―そんな事はわかっていてもはや誰もが返してくるだろう。予想を遥かに上回る速度の少子高齢化、政府と民意が噛み合わないまま進む海外移民大量受け入れ、終わりを見せぬ物価上昇の波更には遠からずと予測される未曾有の地震災害・・・この状況は、まさに異常と思えるも、必然的歴史の只中に過ぎぬのかも知れない。

テレビではほとんど報道されない事で既にネット上では有名な全国に展開を見せ始めた財務省解体デモ、その光景を目の当たりにして政治意識に目覚め、関連動画を発信しつつ「皆とに



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始めると東北好きである。

かく選挙へ行きましよう」と訴える青年、日々の情報の中溢れかえる政権批判にもはや誰もが野党に希望を見出しているか―と思いきや、某局の調査によれば国民の支持政党は未だ圧倒的に現与党だとか、すっかり日本列島は混沌の世界へ突入してしまったようだ。

列島の人々は、誰も彼もストレスを感じている・・・この国の、先行きのどうしようも無さに。一方で日本人の多くが今、「静かな思考放棄」の状態にあるという話もある。その大きな要因として、現代も標準とされる八時間労働は実はひと昔前とは労働密度が違い、デジタル化によって効率化した分、できたはずの余白時間に更に労働を押し込む事で疲弊度は高くなっているといい、多くの人々には就労後に自ら政治などの事について考える余力が残されていない、というのだ―確かに個人的にも大いに思い当たるところではある。

元々政治に関心のない一般人からすれば、いくら世の中が問題だらけだからといって政治について勉強するというのが簡単な話ではない。そもそも「自分が政治について知り、語ったところで何になるのか？」という問いに至るのがオチだ―と大抵、思うのだ。

大体なぜ、一流大学で政治を学んだはずの無数の若者らが、実際に混迷窮まる政治を動かし、改善しようとしなのか―彼らにどうにもできないならば、一般の無知な自分らには尚更無理ではないか、と考えてしまおうというものだ。

以前拙稿でも書いたが、現代社会においてリーダー的素質のある優秀な人材は取えてリーダーなど買って出る事はなく、自らのキャリアと家族を守る為、要領よく生きて行こうとするのだらう―このように、日本全体が困難な状況となると東北だけの事を考えている訳にはいかないような気がしてくるが、むしろこういう時こそ、東北ならどうするか、仮に他が減れば東北だけになったとして、東北だけでどう切り抜けるかという視点で考える心の余裕が欲しいと思うのである。

本稿では、無教養の恥を晒しつつも初心に還り、東北人の理想郷像を今一度検証して実現の一步の為に思考遊戯の事始めとしたい。

※

とは言え、元々がアナキズム（無政府主義）を想い耽り、坂口安吾の『墮落論』を愛読するような私が政治について書くことするのは何とも歓迎されざるというが無謀な話ではある。とりあえずまず始めに、正直な事を皆で口を揃えて白状しようではないか？誰も、政治家などにはな

りたくない。どうしてもエリートぶり、金太郎飴のように一律なスーツ姿で二部をひらがなにした自らの名前の看板を掲げ「お騒がせします」などと言いながら市民に媚びた演説を車上でまくしたてる―そのような「センスのない大人」ぶりを誰もがカッコ悪いと思つて、遠目で見ている。どうせ実現できもしない妄想とともに晒し者になつている有様・・・このようなものを誰が目指すのか？と。

だが、本来は国民に愛され頼られるべき政治家の現状、明らかにこれは国家の悲劇なのだ・・・そんなに皆が嫌がる存在ならば、そのような政治家のスタイルも政治の形自体も白紙にして極端に言うならば―政治家のいない政治を始める事はできないものか？

政治家になる必要がなくそれでいて本当に資質ある優れた人物が中心となつて優れた政治を行える仕組みを構築できないか？

否、誰かが人の嫌がる事を率先し責任を負つてこそ成し遂げられるという意見もあるう・・・そう、その考えで上手く政治が回つてきたのならば―良いのだが。

ならば具体的な方法は？インターネットを駆使して老若男女問わぬ有志からなる地方議会を開催、意見交換を行う。その中でリーダーや参謀など、隠れた資質を持つ者らを「炙り出す」効果もある・・・いまの政治

のやり方ではリーダーになどなりたくない、けれども世の中を良くしたい、能力的な事を言えば、絶対自分にはできるのに・・・そんな風に考えている者が必ず世の中にはいるはずなのだ。

デジタル化の話で言うと欧州では、「政治家のAI化」を肯定する意見が多いと聞く。「重要な政策は人間ではなくAIに任せるべきだ」との事で、過去の政治に関するデータを学習解析させた人工知能に、最善の政策を割り出してもらふもので、何と既にデンマークではこれを基本理念に掲げた政党が登場、ノルウェーではAIを活用した行政が一部実施されているとの事だ―無論有効な側面があれば採用も考えられるが、人工知能はそもそも地方、ここ東北の独立自治を前提に考えてくれるだろうか？

今一度、東北の理想を掲示して現状からの現実的な改善から始める可能性を考えてみるが、まず現時点で考え得る東北の理想郷とはどのような世界だろうか。

近年、と言わずここ数ヶ月の間に米の急高騰に代表される国内の農業に関する深刻な現状が明るみに出てインターネットを駆使して老若男女問わぬ有志からなる地方議会を開催、意見交換を行う。その中でリーダーや参謀など、隠れた資質を持つ者らを「炙り出す」効果もある・・・いまの政治

の従事に関心を示している事が明らかにしたのであるが、この場合国内の農業労働環境やシステムの改革とともに、農業に携わりながらも都市型もしくはそれに代わる新たな文化的環境を享受するという一見贅沢・欲張りな生活スタイルが可能かどうか―も視野に入れる必要があるだろう。

仙台を含めた大都市では近年ますますオフィスワーカーに就く人が多く、その中にホワイトカラーと称して理想的な都市生活が展望されがちだが、実際には高度な管理システムの中で雇用者側の意向に左右され数値化・効率化の波に採まれ心を病む者の絶えぬ世界である。つまり、現在都市生活としてイメージされる就業形態は、現実には多くの人にとつて理想的ではない場合が多いのだ。心のどこかで、人々は農業への回帰を夢見ているのに、その中の多くは非現実的で馬鹿げた事だと、想いを心の隅に追いやつてしまつたのである。

イメージを続ける事が、大切だ―東北には関東から九州に至る地域にはない、既成の枠組みに捉われぬ自由な発想の地盤がある。現時点で、英国支配から半独立を果たしたスコットランド議会のような地方議会を持たぬ東北だが、むしろこれから自由に仕組を構築できる可能性がある、と考えてみよう―東北においては

例えばバーチャル首都を設定し、六県持ち回りで首都機能を移動してみる―かの東北六魂祭、転じて『東北絆まつり』のように、だ。首都はある時期は平泉としても良いし、鶴岡や酒田でも、弘前市や津市でも遠野市でも良いだろう。

衰退する自分の町や、村を失くしたくないと思つたら、正直な考えを表明してみろ。結果的に、消滅を余儀なくされる地域もあるだろうが、たつた一人になつてもその土地を守りたい、という者がいれば尊重され可能な限りの支援を受けられる―そんな東北でなければならぬ、と思う。

近年では経済学者・成田悠輔氏の著書『二十二世紀の民主主義』でも民主主義のルールそのものを変える「革命」の必要性が説かれている。「若者が選挙に行き世代交代を促すべきだ」とよく言われるが、全ての若者が政治参加をしたところで何も変わらない、と氏は断言するのだ。

現在、国内の全有権者に占める三十歳未満の割合は一割程度であり、「超々マイノリティ」なのだといふ―数十年ぶくともしない慢性的停滞と危機に陥つている現政治や社会は若者の政治参加などという生ぬるい行動で変わるような甘つちよい状況にはなく、有効な手段は、若者しか投票・立候補できない選挙区を創



東北人の心に革命の議会を（写真はスコットランド議事堂）

出するか、彼らが叛乱を起こし、高齢者層から選挙権を奪取する―といった革命である、という。革命が百とすれば、選挙に行くだけの議員になるだのいうのは一とか五とかの焼石に水程度のものでしかない。過激な提言であり、出来損ないの小説のような筋書きと自嘲しながら、そのような稲妻が炸裂しない限り日本の政治・社会の暗雲が晴れる事はない―と主張、「中途半端なガス抜き」で問題をぼやけさせるくらいなら部屋でカフエラテでも飲みながらゲームしていた方が楽しいしコスパも良いではないか―というのが「革命か、ラテか」という本書の有名な、衝撃的にして究極なる標語の出所なのである。

更には「独立国家のレシピ」として、随分以前、アナキズムに関する拙稿でも例に上げたような、共通の価値観や資産を持つ人々のみの特定の居住地、つまり準独立都市国家をゼロから作る、あるいは地方議会を奪取して始まったフランス革命のように、既存の国家・自治体を再利用する革命のあり方が提言されている。

※

まさに、待たなしの苦境に直面した斜陽著しき・日本と、尚もその支配に甘んじ従属を続ける東北。革命と独立の夢想は滅びの際に見る走馬灯にも似た一瞬の花火に終わるのか、それとも想像を超えた起死回生の火蓋となるのか。よりアグレッシヴなるイーハトーヴの実現へ、駆け出してみる無謀な未来も、悪くはあるまい。



馬がたくさん



シャガ



モウセンゴケの子供



馬と鹿

シリーズ 遠野の自然
「遠野の芒種」
遠野 1000 景より

今年は大きな出来事もなく、穏やかな一年になるかもしれないと少し安心していただけだった。が、突如として世界が大混乱に陥りそうになってきた。

平和などどうでもよくて、人々の安寧な生活を根底から破壊する身勝手な行動で多くの人が嘆き悲しむことになってしまった。どうしてこんなことができるのかと嘆いてもすでに現実起きてしまっている。

しかし、こうした不完全な人間のふるまいにもかかわらず、大自然はいつもの運行を止めない。大自然の怒りが突如として噴出しな

いことを祈るのみである。



葉下のハチ



タニウツギ



ウルシの花



ウグイスカグラの実

東北大学に世界の英知を結集して世界トップの大学を目指せ！ かつてのアメリカがドイツ人研究者を呼び込んだように集めよ！



5 年で優秀な研究者 約 500 人獲得を発表する東北大学
富永総長・・・NHK ニュースより



ドローンで見る東北大学 2022 青葉山キャンパス -
YouTube より



トランプ大統領からの攻撃が止まらないハーバード大
学・・・時事通信より



ハーバード大学の反トランプデモ
・・・TBS NEWS DIG より

東北大学が五年で五百 名の研究者募集を発表

東北大学の富永総長が今月はじめ会見し、世界トップレベルの研究水準を目指して、今後五年間でおよそ三百億円を投じ、優秀な研究者およそ五百人の獲得を目指すを発表した。

東北大学は国が新たに支援を行う「国際卓越研究大学」にすでに認定されているが、世界トップレベルの研究水準を目指し、国が重点的に支援する大学であり、財源には国が設立した十兆円規模の基金「大学ファンド」の運用益を活用するということである。

初回の公募で選ばれた東北大学には、今年度分として約百五十四億円が助成され

れている。

富永総長の説明によると、アメリカの複数の大学と連携するなどして、優秀な研究者およそ五百人の獲得を目指すということだ。

教授一人当たりおよそ三千万円の年俸を用意し、特に優秀な研究者には報酬の上限を設けず採用するとの方針である。

今年度は助教など若手研究者も含めた百人ほどの採用に、約二十二億円を充て、将来を担う人材も積極的に採用したいとしている。

アメリカではトランプ大統領方針により、科学研究への資金援助が削減されているが、富永総長は「世界中から優秀な研究者を集める中で、窮地にあるアメリカの研究者にもアプローチ

したい。今、求められているのは大学の研究を社会に実装し役立てることだ。そうすることで日本や世界の発展に貢献したい」と述べた。

ハーバード大学への 大統領の攻撃

すでに何度も報道されているので周知のように、トランプ米政権による名門私大ハーバード大への「攻撃」が止まらない。

大学への補助金凍結に加えて打ち出した留学生の受け入れ禁止措置は裁判所が一時的に差し止めたが、五月末には同大関係者へのビザ（査証）審査を厳格化。これまで米国の発展に寄与してきた外国人学生や研究者を締め出す動きが相次

いでおり、人材の米国離れや経済的打撃が広がりそう

で、同大の留学生の動向について大学の担当者は「数え切れないほどの留学生から転校について問い合わせを受けている」と述べた。

同大は学生の約二十五％が留学生で、日本人も多く在籍してきた。

トランプ政権はハーバード大が反ユダヤ主義対策を怠り、中国共産党と協力している」と主張する。

トランプ氏の支持層が抱く高等教育界への反感もあり、四月には同大への二十億ドル以上の補助金も凍結し、その後も非課税資格の剥奪や全ての委託契約を打ち切る方針を示すなど、矢継ぎ早に圧力を強めてきた。

トランプ氏は五月末、ハーバード大などの留学生比率は十五％以下が望ましい」と発言。「留学生の多くはトラブルメーカーだ」と根拠を示さず主張した。

ハーバード大は、政権の措置の撤回を求めて提訴している。しかし最終的に法廷闘争に敗れば、留学生は転校しない限り在留資格を失う。入学予定者へのビザ発給厳格化の影響も見通せない。

シンクタンク「米国家政策財団」は留学生の米国離れが進みかねないと警鐘を鳴らした。

教育系非営利団体の試算によると、ハーバード大のある東部マサチューセッツ州で留学生がもたらす経済効果も計り知れない。

また、米国経済を支える起業家の中には留学生としてキャリアをスタートさせた人も多く、経済への打撃も懸念されるという。

一方、米国以外では人材確保の好機と捉えて受け入れを表明する大学が続出しており、日本でも受け入れに向けた準備が進んでいる。東北大学もそのひとつだ。

アメリカの凋落開始

それにしてもアメリカはなんともつたいないことをしたのかと思う。国の富」を見誤ったとしか思えない。世界の歴史を振り返れば分かることだが、その学習が不足しているようだ。

しかし、見方を変えれば、世界の頭脳という宝が、ここからは世界に分散するとい

うことになるのだから良いことなのかもしれない。翻って、アメリカの近未来は芳しくないものとなるのは確実だ。

世界大戦前後にアメリカにドイツ研究者流入

常識はずれのトランプ政権の対応だが、それにしても思い出されるのは第二次世界大戦中もその後においても、ナチスドイツを嫌ったドイツの精鋭研究者たちが自由を求めて亡命あるいは移民となってアメリカに大量に移動した歴史である。有名などころでは相対性理論で有名なアインシュタインなどがある。

その後のアメリカは彼らの頭脳をいかに活用したか、科学分野においてもその

他の分野においても世界の頂点に立ち、世界をリードしていったが、そのことに亡命・移住研究者たちが貢献したのはまちがいない。

東北大学は世界のトップを目指せ！

我が東北大学も、そのアメリカの歴史にならい、アメリカから優秀な研究者、学生を集めることを決断したことを喜ぶたい。

どうせなら、アメリカだけでなく、広々としたキャンパス、十分な研究費、何よりも政治に影響を受けない研究生活があるというメリットを世界に発信し、世界中から優秀な研究者と学生を集めてもらいたいと思う。



写真でお伝えする 東北の風景

「チャグチャグ馬コ」 写真撮影 尾崎匠

